

# ぼくらの野菜作り

—作って、育てて、感じよう—

代表者 永田大翔（農学B 4年）  
構成員 浅間久代（農学B 4年）金子奈々恵（農学B 4年）秋山龍生（農学B 4年）  
梶田華菜（農学B 4年）尾崎将紀（経済B 3年）  
荻伸一郎（理学B 3年）一ノ瀬翔（教育B 3年）  
佐伯香奈（教育B 3年）杉山響子（教育B 3年）  
寺脇彩乃（経済B 1年）中島美紀（外部参加者）

## 1. プロジェクトの目的

野菜作りや調理という手段を用いて、参加者に食の大切さについて改めて考えてもらう、というのが本プロジェクトの目的です。私たちが普段何気なく口にしている食べ物について、改めて考えてもらうために、野菜作りという体験の中で直接土や自然に触れ合い、野菜の成長過程などを自分の肌で感じながら楽しく学んでほしいと考えました。参加者には、生産するだけでなく調理も行ってもらい、食べ物が作られて口に入るまでの一連の流れを体験してもらうことで、総合的な視点を養いたいと思いました。その体験の中で野菜を収穫する達成感と、収穫物を食べる喜びを感じてほしい。日常の中で食べている物に対して改めて関心を持ち、メディアなどによる受け売りではなく、現場で自分の目でその答えを探してほしい。以上のような思いを抱いてこれまで活動に取り組んできました。また、こうした活動を通して、地域の方々と山口大学の学生が交流を持つことのできる場を作ることができればよいと考えました。

## 2. イベントに向けて参加者の募集

一番苦労したことは参加者の募集です。まず、当初予定していた6月20日のイベントに向けて、募集を行いました。チラシは手書きで作成しました。平川公民館に配布しました。しかし6月11日の期日までに参加者は集まりませんでした。次はチラシのインパクトがないという反省を活かして、7月11日に行うイベントに向けて募集を行いました。チラシをA3サイズのカラーにバージョンアップし、山口大学教育学部附属小学校や児童館、小児科など5か所に配布しました。しかし、参加者は集まりませんでした。この間、畑の野菜はみるみる成長し、キュウリは収穫ができようになってしまいました。そのため、当初予定していた参加者が行う野菜の栽培体験ができなくなってしまう、参加者の畑での体験が収穫のみでいかに野菜の事を学んでもらうのかということを考えるようになりました。8月20日のイベントに向けては、工学部の崎山智司先生にご指導・ご協力をしていただき、準備を行いました。チラシの文字をできるだけ少なくし、新たに市立図書館、平川小学校、大歳公民館、湯田公民館、大内公民館、県立図書館にチラシを配布し、湯田公民館では小学生を前にPRを行いました。しかし、参加者は集まらず、イベントを行うことができませんでした。次の9月5日、9月20日のイベントへ向けては、チラシをパワーポイントで作成し、写真を大きく載せ、同じ施設に配布しました。その結果9月5日は1家族4名、9月20日は2家族の応募がありました。電話がかかってきたときは涙が出るほど嬉しかったです。

## 3. イベント当日

9月5日のイベントには山口市立図書館のチラシを見て申し込んでくださった1家族4名が参加されました。私たちは参加者に楽しんで帰ってもらいたい一心でイベントを迎えました。調理室で受付後、名札に名前を書いていただきイベントを開始しました。始めに、事前に書いていた、ホワイトボードに収穫する野菜のマメ知識や畑に出没する虫について説明しました。そのあと、クイズを交えながら、今までの野菜の成長過程の写真を見せ、説明しました。小学生にとって難しい話にならないか心配でしたが、興味を持って話を聞いてくれました。

そして、畑に移動し、収穫体験です。当日は気温も高く、日が照っていたので、日陰のためのタープテント、冷たいお茶の入った水かんを準備していました。暑さの心配をよそに子どもたちは野菜の収穫に夢中なり、トマト・キュウリ・ナス・ゴーヤ・オクラ・ピーマンをビニール袋いっぱい詰めていました。畑で私たちは今

まで栽培管理してきたことや、農業について話を積極的にしました。収穫体験を終えた後は、教育学部にある調理室に移動して、15分間の休憩後、カレー作りの説明と包丁の使い方など注意点の説明をしました。この日のために、何度も事前に作り方の確認やシミュレーションをした結果、無事怪我もなく、楽しく調理をすることができました。9月20日は採れたての野菜と山口県産コムギと外国産コムギを使ったピザ作りを行いました。野菜の収穫体験や調理で子どもたちが様々なことを感じているような様子を見ることができてよかったです。家族での参加だったので、私たちも親と子どもの温かさを感じることができました。最後に参加者全員にアンケートを書いていただきました。「見たことのない大きなナスがとれたことが楽しかった（5年生）」「ピザ作りが楽しかった（3年生）」「次はラッカセイを掘ってみたい（6年生）」「採れたての野菜で、野菜のおいしさがよくわかった（保護者）」「もう少し畑の面積が広がったらよかった（保護者）」「学生が子どもに虫のこと、野菜のことなどさりげなく教えてくれてうれしかった（保護者）」「プロジェクターで苗の様子や雑草の伸びて大変だった様子などよくわかり、よかった（保護者）」などの声をいただきました。



写真1 野菜の収穫体験



写真2 親子でカレー作り

#### 4. 農地の管理

イベントが終了した後も12月に山口大学附属農場に返却するまで、借りていた農地の管理作業をしていました。夏季のように、雑草は旺盛ではないですが、どんどん成長してきます。主な作業は、まめな除草作業の他、夏野菜を育てるために設置していたマルチや支柱の取り除き、計5回のあぜ道の草刈り、作業のしやすい雨の降ったあとに除草と家庭用耕耘機を用いて耕耘を3回行いました。狭い面積ですが、農地を管理するのは大変だと感じました。こういった野菜を生産する農地を保持するための作業のことをイベントの参加者に紹介することも重要なのではないかと感じました。また、12月16日には、私が家で管理している園芸用ハサミやノコギリ、調理で使用した洗剤やラップなどの物品を整理しました。12月17日は丹野研究室のハウスの一角を借りて保存している支柱やバケツ、作成した看板、テーブル、ジョウロなどを整理しました。



写真3 除草作業の様子

#### 5. 学んだこと

本プロジェクトでは、参加者をうまく集めることができず、2回のみイベント開催でした。このプロジェクトを通して、自分たちがああしたい、こうしたいと考えることより、参加者に楽しく学んでもらい、またイベントに参加したいと思ってもらうためにプログラムなどを考えることが重要だと痛感しました。参加した親子の自然な笑顔に触れ、自分たちも温かい気持ちになり、今までやってきて良かったと感じました。

#### 6. 謝辞

このような有意義な活動ができたのは、おもしろプロジェクト関係者様のご支援があってこそのものでした。ここに記して心より感謝の意を表します。また、本プロジェクトの活動において、ご指導、ご協力をいただいた顧問の丹野研一助教、参加者募集の支援やアドバイスをいただいた崎山智司准教授、農地探索にご協力いただいた深田三夫教授、さらに多くのご協力をいただいた地域の皆様にも心より感謝いたします。